

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第12号
2017(平成29)年12月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

相手次第、工夫次第 — 草木染めの魅力 —

晩秋、路上にあふれる落ち葉を拾い集めて草木染めをしてみました。桜の落ち葉です。私にとっては3度目の草木染めチャレンジです。

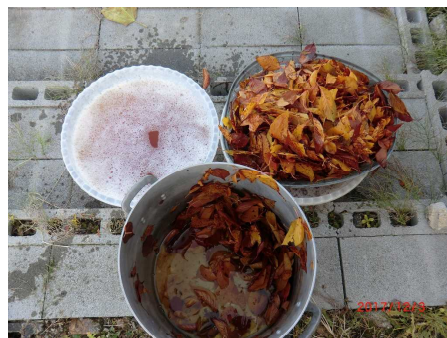
11月9日に約600gの落ち葉を拾い集め、約30Lの水に漬け込み、24日間寝かせました。この間、冷え込む日が多くありましたのでカビが発生する心配はなかったものの、逆に冷え込みが厳しすぎたために、色が染み出しにくかったかもしれません。12月3日に抽出した染液の色はやや薄めでした。

真っ白な木綿のハンカチの前処理には無調整の豆乳を用いました。木綿や麻などの植物性繊維には植物性染料は染着しにくいため、タンパク質を付着させる前処理が必要になります。かつては呉汁(ごじる・大豆をすり潰して漉したもの)が多く用いられたらしく、豆乳や牛乳でも代用できるようです(動物性繊維である羊毛や絹には、この前処理は必要ありません)。

桜の落ち葉は濾過したあとに廃棄(畑で堆肥づくりのもとにした)。落ち葉を入れたまま煮出す方法もありますが、今回は落ち葉を取り除いたあとに染液を沸騰させ、前処理済みのハンカチを浸けて約40分間煮沸しました。後の媒染には椿の焼却灰を用いました。媒染とは「染料と薬剤(媒染剤)を化学的に結合させ、染料を繊維に染着させること。さらに発色効果もあり、植物染料には、この媒染剤を使うものが多い」(日本の染織3『草木染め—日本の風土が育てた手作りの色』昭和50年、泰流社)とあるように、染料を繊維に定着させ、発色を促す工程です。この媒染処理をしなければ、すぐに色が落ちてしまいます。また、媒染剤を使い分けることによって、同じ植物から抽出した染液でも発色を変化させることができます。

専門的な解説は私の手に負えませんが、要は水溶性の金属塩を含む薬剤(媒染剤)を掛け合わせることによって化学反応を生じさせているようです。したがって、金属塩(ミョウバン、硫酸銅、重クロム酸カリ、木酢鉄、硝酸鉄、硫酸第一鉄など)の種類が異なれば化学反応も異なり、発色も異なる、ということのようです。たとえば、今回媒染剤として用いたのは、椿の木の焼却灰です。椿の焼却灰にはアルミニウムが含まれているようで、アルミ媒染となります。発色した色は桜色というよりは薄い肌色に近いものとなりました。これが、鉄分を含む媒染剤で行うと、グレーに近い色になるそうです。ちなみに、11月3日に行った収穫祭のイベントにおける草木染めでは、カリン(花梨)の青葉を用いて草木染めをしました。採れた染液は黄色(果実の色)に近く、染液に浸けた段階では黄色に近かった木綿のハンカチが、椿灰の上澄み液に浸けてしばらくすると、みるみるうちに赤味を帯びた鮮やかな色(濃ピンク)に変化しました。これには一同、感嘆の声を上げました。

「植物性染料は、動物性繊維には直接染着するが、植物性繊維にはそのままでは染着しにくい。同じ染液でも、掛け合わせる相手によって異なる色が引き出される」。自然界には、相性(あいしょう)というものがあり、そのもの自身が持つ魅力を、どのようにすれば最大限に引き出せるかは、相手次第、工夫次第ということのようです。草木染めの楽しみの一つです。



桜の落ち葉から染液を抽出

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成29年11月26日～平成29年12月25日)

千葉県1、長野県1、岐阜県1、三重県1、兵庫県2、奈良県1、和歌山県1、山口県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成29年11月26日～平成29年12月25日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2件2名



《綿の栽培記録 2017》 — 平成29年度版 その6 —

年末を迎え、いよいよ綿木を引き抜く時期になりました。数は少ないものの、まだこれからはじけようとしている蒴果があり、開いたばかりの蒴果もあります。この状態で引き抜くことにはためらいもありますが、来シーズンに向けての土作りの準備のためです。12月27日に行う恒例の綿木引きを前に、12月26日に今季最後の綿摘みをしました。今年の総収穫(実綿)量は下記の通りです。

◇和綿(107株) 実綿 4, 250g + コットンボール約400個(実綿量 840g) = 実綿 5, 090g

◇洋綿(43株) 実綿 2, 565g + コットンボール約320個(実綿量 2, 176g) = 実綿 4, 741g

◇茶綿(6株) 実綿 788g + コットンボール 15個(実綿量 102g) = 実綿 890g

※コットンボールの個数は、コットンボールの状態状態で保管してある数を示しています。コットンボール1ヶあたりの実綿の量は個体によってもまちまちで、和綿・洋綿では大きく異なります。

和綿1ヶあたりの実綿重量/コットンボール重量 2.6g/4.2g、2.4g/3.3g、1.4g/2.6g、1.8g/2.5g … ⇒平均 2.1g

洋綿1ヶあたりの実綿重量/コットンボール重量 5.3g/7.0g、6.8g/8.7g、7.0g/9.6g、8.1g/10.6g … ⇒平均 6.8g



【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

・糸車を用いての糸紡ぎ量 (洋綿)

11月26日～12月25日(作業実日数23日) 糸の総量125.9g (33.57匁) 総時間329分(5時間29分)

※1分間≒0.383g 1時間≒23.0g (6.1匁)

【研修等の記録】

- ・平成29年12月22日「相楽木綿伝承館：機織り教室中級⑨織り付け」(京都府相楽郡精華町)質問
- ・平成29年12月23日「姫路木綿：棉屋(株)」(兵庫県姫路市)訪問、見学

【以下の写真は、左：綜紬と箆の関係(相楽木綿伝承館)、中と右：姫路の棉屋さんの店内展示の様子】

